

2007年度第1回常任理事会議事録

日時：2007年4月14日(土)午後5時～午後7時

場所：明治学院大学白金キャンパス

本館(1号館)9階91番会議室

出席者：岡村一成理事長、荻野七重副理事長・浮谷秀一、大橋信夫、垣本由紀子、田之内厚三、所正文、内藤哲雄、藤田圭一、松浦常夫、向井希宏、南隆男(以上12名)

委任状：松田浩平、蓮花一己(第74回大会委員長を兼ねる)

事務局：浮谷秀一(事務局長)、伊波和恵(幹事)

1. 報告事項

(1) 理事長挨拶

- ・60周年記念出版祝賀会開催の報告と御礼があった。詳細は別に報告。

(2) 各委員会報告

1) 機関誌編集委員会(藤田委員長)

- ・第32巻第2号の審査ならびに編集状況について説明があった。投稿6本のうち、3本を掲載する。花沢成一先生の追悼文(井上僖久和先生)と田中富士夫先生の追悼文(田形修一先生)を掲載する。その他、事務局だより、認定「応用心理士」事務局より、機関誌「応用心理学研究」の新投稿・執筆規程、機関誌「応用心理学研究」の新編集規程を掲載する。

- ・第26回国際応用心理学会議出席者を対象とした個人の英文論文15件と応用心理学会企画シンポジウムの報告を加えて、特集号として編集する。

2) 企画委員会(内藤委員長)

- ・2006年度シンポジウムを本日午後1時30分から5時まで、明治学院大学本館1201教室で開催した。テーマは『過重負担の医療・福祉従事者をどう支援するか?』、企画は内藤哲雄氏(信州大学)、司会は大橋信夫氏(日本福祉大学)、内藤哲雄氏(信州大学)、話題提供：峯尾武巳氏(神奈川県立保健福祉大学)、吉方りえ氏(医療法人社団順聖会吉方病院医師)、山川庸介

氏(児童養護施設まつば園保育士)、安藤真智子氏(東京都渋谷区子ども家庭支援センター専門相談員)、指定討論は井上孝代氏(明治学院大学)、松下由美子氏(山梨県立大学看護学部)であった。

- ・第74回大会(於：帝塚山大学)での研修会は、以下のとおり企画を進めている。しかし、出席者が少なく、何らかの対策を考える必要があると提案された。

①9月8日「社会における応用心理士の使命と課題・留意点」(講師：神作博氏(中京大学)、司会：向井希宏氏(中京大学))。

②9月9日「未定」(講師：井上孝代氏(明治学院大学)、司会：伊藤武彦氏(和光大学))。

3) 広報委員会(所委員長)

- ・ニュースレター第17号が間もなく発送予定であることが報告された。ただ、校正の手順について質問があり、最終的に広報委員会の責任校正とすることになった。

4) 認定「応用心理士」認定審査委員会

(浮谷委員長)

- ・19名の申請書類を審査した結果、16名を合格、2名を不合格とした。1名は申請を取り下げた。全員に認定証を送った。

5) 国際交流委員会(松浦委員)

- ・次回の国際応用心理学会議の件など、いくつかの案件を継続して検討中であると報告があった。

6) 若手研究者支援委員会(田之内委員長)

- ・次回の大会では、プログラムに若手支援の案内を掲載することを検討していると報告があった。

7) 学会賞・奨励賞選考委員会(荻野委員長)

- ・委員会が平成20年度に設置し、平成18年度分、19年度分を対象に選考することが確認された。

(3) 日本心理学諸学会連合報告(岡村理事長)

- ・特になし。

(4) 2007年度第74回大会について

(代理：向井常任理事)

- ・2007年9月8日, 9日に帝塚山大学学園前キャンパスにおいて開催する。
- ・1号通信が間もなく発送されると報告があった。

2. 審議事項

- (1) 名誉会員推戴に関する件 (岡村理事長)
 - ・平成19年度名誉会員候補者の中から, 馬場房子氏と垣本由紀子氏の推戴を決定し, 承認された。
- (2) 終身会員に関する件 (岡村理事長)
 - ・40名の申請があり, 38名は承認した。残りの2名については, 学会年会費が未納のため, 納入が確認された場合という条件付で承認された。
- (3) 2006年度決算に関する件 (浮谷事務局長)
 - ・すべての委員会から報告が出ていないが, 現時点での状況が説明された。次回に確認することになった。
- (4) 2007年度予算案に関する件 (浮谷事務局長)
 - ・予算案は, 昨年度予算に基づいて作成されたものが示された。一部金額について修正があり, 次回最終確認をすることになった。高嶋正士名誉会員からの寄付50万円の取り扱いについて, 理事長から, 若手育成基金へ繰り入れたらどうかとの提案があり, 高嶋先生の了承を得て決めることが承認された。
- (5) 新入会員審査および会員異動について
(浮谷事務局長)
 - ・新入会員申し込みのあった9名について審査し, 全員承認した。
高井 秀明, 津田 康民, 内田 誠也,
平木 貴子, 上田真由子, 石井 裕美,
西土 泉, 清水 明美, 高橋 美奈
 - ・3月31日現在, 会員数1,100名 (内訳: 正会員数1,018名, 学生会員2名, 名誉会員40名, 終身会員40名, 賛助会員4名)。入会者7名, 退会者27名 (うち, 逝去1名)。

* 次回常任理事会は2007年6月29日 (金) 午後6時より東京富士大学において開催される予定。

2007年度第2回常任理事会議事録

日 時: 2007年6月29日 (土) 午後6時~午後8時45分

場 所: 東京富士大学本会1階第2会議室

出席者: 岡村一成理事長, 荻野七重副理事長・浮谷秀一, 大橋信夫, 垣本由紀子, 田之内厚三, 所 正文, 内藤哲雄, 藤田主一, 松浦常夫, 松田浩平, 向井希宏, 南 隆男 (以上13名)

委任状: 蓮花一己 (第74回大会委員長を兼ねる)

事務局: 浮谷秀一 (事務局長), 伊波和恵 (幹事)

1. 報告事項

(1) 理事長挨拶

- ・高嶋正士名誉会員からの寄付を, 若手育成基金として活用させていただくことに了承していただいた。

(2) 各委員会報告

1) 機関誌編集委員会 (藤田委員長)

- ・第32巻第2号 (3月31日付) の発行状況について説明があった: 投稿数は6本 (原著5本, 資料1本) あった。掲載内容は, 資料3本, 追悼文2本, 事務局日より, 認定「応用心理士」事務局より, 「応用心理学研究」投稿・執筆規程, 機関誌編集規程を掲載。
- ・現在, 機関誌作成作業を依頼している印刷所の編集作業終了から印刷発行までに時間がかかるため, 迅速な対応が要望された。また, 印刷所の単純なミスが多く, 今後改善するよう要望していくことになった。
- ・第33巻第1号 (秋期) の投稿状況について説明があった: 投稿数は7本 (英文投稿2本を含む)。短報3本, 公開シンポジウム記録1本 (予定)。
- ・第26回国際応用心理学会議特集号については, 申込数16本で, 投稿は13本 (辞退1本, 勘違い2本), 応心企画シンポジウム関連1本。年度内の発行を目標に, これから審査・編集に入る。
- ・7月21日 (土) に編集委員会開催の予定。

2) 企画委員会 (内藤委員長)

- 4月の公開シンポジウムについては、昨年と同様再構成して機関誌に掲載する。
- 大会時研修会は、神作先生と井上先生にお願いした。また、研修会用の受付へのスタッフ配置等は、第74回大会以降は主催校に担当していただくことが確認された。
- 研修会、公開シンポジウムに参加することによって、認定「応用心理士」資格取得のためのポイントとして加算したり、地域市民に広報したりするなど参加者を増やす方策の検討が提案された。

3) 広報委員会

(所委員長, インターネット担当: 松田委員)

- ニュースレター第17号(12ページ)が発行された。
- ニュースレター第18号の発行は、大会終了後の11月頃を予定。
- ホームページの再構築作業中である。資料のデータベース検索(アブストラクト程度)を可能にすることを最優先課題と考えている。
- 会員情報の登録や検索性については、個人情報保護との兼ね合いから検討すべき課題が多い。

4) 認定「応用心理士」認定審査委員会

(浮谷委員長)

- 2007年度前期の申請はなかった。

5) 国際交流委員会 (蓮花委員長)

- 特になし。

6) 若手研究者支援委員会 (田之内委員長)

- 若手支援の内容を大会プログラムに掲載することになった。

(3) 日本心理学諸学会連合報告 (岡村理事長)

- 選挙の結果、市川伸一氏が会長に、大坊郁夫氏、野島一彦氏が副会長に決定した。
- 第1回心理学検定試験を2008年9月14日に、東京、札幌、名古屋、大阪を会場として実施することが決まった。
- 今年度の連合年会費は昨年同様例年の1.5倍となった。

(4) 2007年度第74回大会について

(代理: 浮谷事務局長)

- 2007年9月8日、9日に帝塚山大学学園前キャンパスにおいて開催する。
- 理事会は大会前日の7日夜、懇親会は8日夜(大学からバスにて送迎)に、それぞれ奈良ホテルにて開催予定。
- 申し込み状況は次のとおり: 口頭発表23件、ポスター発表77件、参加申込61件、論文集購入のみ4件、広告申し込み15社、出店申し込み4社、寄付の申し出約10件。
- 大会エントリーのWeb手続きについて、わかりにくい点や操作性の問題点が指摘された。次回より改善するように提案があった。

2. 審議事項

(1) 2006年度決算に関する件 (浮谷事務局長)

- 決算書(案)が事務局より提出され、承認された。次回理事会までに会計監査を受ける。

(2) 2007年度予算に関する件 (浮谷事務局長)

- 提案された予算案について、若干の修正をして承認された。

(3) 新入会員審査および会員異動に関する件

(浮谷事務局長)

- 新入会の申し込みのあった51名について審査し、以下の51名全員を承認した。

小平 朋江, 澤田 幸嗣, 堀井 健,
清水 美帆, 高橋 有里, 全 花鮮,
奥野 朝子, 塩野 由乃, 田中 和美,
牧野 祥子, 川口 智子, 小畑 周介,
松上 伸丈, 沼山 博, 矢野 優人,
石館美弥子, 島崎 敢, 小林 敦子,
渡邊亜紀子, 松田 睦代, 菊池 武尅,
北風菜穂子, 濱口まち子, 山田 竜平,
岩井 眞弓, 長坂 晟, 池田 満,
岡崎 琴恵, 玉井 航太, 窪田 知子,
橋田 藍子, 長崎真梨恵, 鳴原 依子,
武田 善樹, 市川 千文, 三井 清美,
弦間 亮, 山本美知子, 植田 有香,
上野 恵加, 基島 里奈, 小玉 昌直,
佐相 泰介, 佐脇 亜依, 白鳥 司,
玉瀬 耕治, 西沢 綾, 松本麻衣子,
吉田 智子, 小西 浩嗣, 小杉 考司

- 6/27現在、会員数1,142名(内訳: 正会員

数 1,057 名, 学生会員 3 名, 名誉会員 39 名, 終身会員 39 名, 賛助会員 4 名)。入会者 54 名, 退会者 15 名 (うち, 逝去 2 名)。

- ・ 柏木理事の退会により, 理事に欠員が生じるが補充しないという会則により, 理事は 35 名 (1 名欠員) とする。
- ・ 亀井一綱名誉会員が逝去されたが, 葬儀等には対応できなかった。慣例により, ニュースレターにおいてお悔やみを, 機関誌には追悼記事をそれぞれ掲載することとする。追悼記事の執筆者については, 後日検討する。
- ・ 名誉会員などの逝去時の学会対応の仕方については, 慣例を規程等として明記するかどうか, 今後話しあうことになった。

(4) その他

- ・ 第 73 回大会委員会の松田事務局長より, 大会決算についての最終報告があり, 残金 102,378 円を若手育成基金に寄付していたことになった。2006 年度決算に計上することとなった。

* 次回常任理事会は 2007 年 8 月 3 日 (金) 午後 3 時より東京富士大学において開催される予定である。

2007 年度第 3 回常任理事会議事録

日 時: 2007 年 8 月 3 日 (金) 午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分

場 所: 東京富士大学本館地階第 1 会議室

出席者: 岡村一成理事長, 浮谷秀一, 垣本由紀子, 田之内厚三, 内藤哲雄, 藤田主一, 松田浩平, 南 隆男, 蓮花一己 (第 74 回大会委員長を兼ねる) (以上 9 名)

委任状: 荻野七重副理事長, 大橋信夫, 所 正文, 松浦常夫, 向井希宏

事務局: 浮谷秀一 (事務局長), 伊波和恵 (幹事)

1. 報告事項

(1) 理事長挨拶

- ・ 亀井一綱名誉会員の追悼文については, 井上枝一郎会員にご寄稿いただくことになった。

(2) 各委員会報告

1) 機関誌編集委員会 (藤田委員長)

- ・ 第 33 巻第 1 号の投稿状況について説明があった。短報 7 本, 実践報告 1 本投稿があり, 審査中である。
- ・ 第 26 回国際応用心理学会議特集号については, 応心企画シンポジウムおよび投稿された 14 本で構成される。しかし, 関係者全員に別刷 20 部ずつ進呈するのでは予算オーバーとなるので, 国際交流関係の予算を増額して対応することが了承された。
- ・ 追悼文については別刷を作らないこととする。

2) 企画委員会 (内藤委員長)

- ・ 11 月 17 日 (土) のシンポジウムの仮テーマは「国際理解」で, シンポジストとして伊藤哲司氏と井上孝代氏を予定している。
- ・ 公開シンポジウムの広報の方法, および公開シンポジウム参加者に, 認定「応用心理士」取得のためのポイントを付与することなどを検討することになった。

3) 広報委員会

(インターネット担当: 松田委員)

- ・ ニュースレター次号の発行は大会後, 11 月頃を予定。
- ・ 学会ホームページを構築作業中である。

4) 認定「応用心理士」認定審査委員会

(浮谷委員長)

- ・ 2007 年度前期の申請はなかった。広報の方法およびポイント制について検討する予定である。

5) 国際交流委員会 (蓮花委員長)

- ・ 今年度末には, オーストラリアでの大会について, 企画内容等を検討する予定である。

6) 若手研究者支援委員会 (田之内委員長)

- ・ 若手研究者の大会参加支援制度の申込み者は現在 3 名である。今年度大会には 40 件程度の大学院生の発表があるにもかかわらず申込み者が少ないことを踏まえて, 大会当日の対応および広報の方法等を今後検討していく。
- ・ 大会申込み手続きの際, 大学院生が大会支

援制度の案内が記載されている紙媒体を確認せずに、Webのみで大会情報の取得、発表手続きなどを行っている可能性が示唆された。Web上でも大会支援制度がわかるようにすることが、来年度の検討課題である。

- ・今年度については、大会当日、該当する発表者に対して広報に努める。

(3) 2007年度第74回大会について

(蓮花大会委員長)

- ・2007年9月8日、9日に帝塚山大学学園前キャンパスにおいて開催する。大会プログラムに基づいて、以下の報告があった。
- ・理事会は大会前日の7日夜、懇親会は8日夜に、奈良ホテルにて開催する(大学からバスにて送迎)。
- ・参加状況は次のとおり: 予約参加申込者191名、発表125件(正会員94件、院生31件)、懇親会54名。ほぼ見込みどおりである。
- ・帝塚山大学などから多くの寄付をいただいた。
- ・入構のためのセキュリティが厳しいので、大会参加者向けの対応を検討中である。

(4) その他

- ・2006年度第73回大会の松田大会副委員長から、資料に基づき決算についての最終報告があった。なお、残金102,378円は、若手育成基金に寄付することになった。

2. 審議事項

(1) 2006年度決算監査結果報告(浮谷事務局長)

- ・決算については、一部修正のうえ、7月28日に監査を受け、承認された。

(2) 2009年度第76回大会に関する件

(岡村理事長)

- ・川本利恵子先生(九州大学)に大会委員長を依頼することとする。開催場所は未定。

(3) 新入会員審査および会員異動に関する件

(浮谷事務局長)

- ・新入会員申し込みのあった1名について審査、以下の1名を承認した。
栗原 通世
- ・8月2日現在、会員数1,147名(内訳: 正

会員数1,062名、学生会員3名、名誉会員39名、終身会員39名、賛助会員4名)。入会者4名、退会者0名。(正会員1名退会取り消し。終身会員から正会員へ種別変更1名。)

(4) その他

- ・予算書の国際交流費を25万円とすることが承認された。

*今年度の理事会は2007年9月7日(金)午後5時~7時奈良ホテル若草の間で開催し、それに引き続き理事懇親会を奈良ホテル金剛の間で開催する予定である。

*次回の常任理事会は、11月17日(土)公開シンポジウム前に開催予定である。

会員異動

2006年度新入会会員(2006.4~2007.3)

安達 悠子

大阪大学大学院人間科学研究科

安藤 詳子

名古屋大学医学部保健学科看護学専攻

石井 紀子

東京都立北多摩看護専門学校

石丸 律子

静便堂白石共立病院

磯 友輝子

東京未来大学こども心理学部

井上 億久和

聖徳大学人文学部心理学科

岩本 彩子

立命館大学大学院

植田 智也

静岡英和学院大学

梅山 佐和

立命館大学大学院

大塚 一徳

長崎県立大学経済学部流通経営学科

大前 泰彦

箕島中学校

大森 誠

東京荏原青果株式会社

小倉 有紗

大阪大学大学院人間科学研究科

笠原 博樹

友愛クリニック看護部

樫淵 めぐみ

日本学術振興会

加藤 純子

帝塚山大学人文科学研究科臨床社会心理学専攻

浦生 澄美子

埼玉医科大学短期大学

川合 悟

帝塚山大学心理福祉学部

雲井 千香子

桜美林大学大学院

小菅 美穂

法務省

小谷 賢太郎

関西大学工学部

事崎 由佳

東北大学情報科学研究科

小林 剛史

文京学院大学

近藤 千尋

立命館大学

酒井 美子

桐生短期大学看護学科

櫻井 美由紀

東北大学大学院情報科学研究科

桜井 裕子

東京国際キャリアダイナミックス

佐々木 史之

日本体育大学

笹木 靖之

慶應義塾大学社会学研究科社会学専攻

佐渡 真紀子

お茶の水女子大学人間文化研究科

澤田 正康

株式会社ニコンシステム

七田 眞

七田教育研究所

白井 清太郎

国士舘大学大学院

菅野 智子

文京学院大学大学院人間学研究科心理学コース

菅野 亮

東京国際大学大学院国際関係学研究科

杉浦 愛子

駒澤大学文学部心理学科

鈴木 佳苗

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科

関口 喜久代

群馬社会福祉大学短期大学部

関口 恵子

埼玉医科大学短期大学

高澤 昌代

北星学園大学大学院

高橋 明子

早稲田大学大学院人間科学研究科

高橋 正人

新世代ワイヤレス研究センター

高比良 美詠子

独立行政法人メディア教育開発センター

高柳 伸哉

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科

瀧上 凱令

帝塚山大学心理福祉学部

武居 由希子

信州大学大学院

竹田 せき子

文京学院大学

田島 祥

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科

田畑 智章

東京富士大学経営学部

近岡 恵子

東京国際キャリアダイナミックス

徳永 美佐子

育英幼稚園

鳥山 絵美

国立精神神経センター武蔵病院

中嶋 一恵

長崎市医師会看護専門学校

仲田 将寛

名古屋刑務所分類審議室矯正処遇官

中村 隆一

立命館大学応用人間科学研究科

- 中谷内 一也
帝塚山大学
- 名張 恵那
マナ色彩心理研究所
- 西村 和久
桜美林大学大学院
- 野内 類
中央大学文学研究科
- 野口 理英子
兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科
- 八田 武俊
岐阜医療科学大学
- 花尾 由香里
東京富士大学経営学部
- 早川 未紗
京都市立修学院小学校
- 飯田 真理子
立命館大学大学院応用人間科学研究科
- 枚田 香
大阪電気通信大学総合情報学部
- 平山 裕記
帝塚山大学
- 藤掛 和広
名古屋大学大学院情報科学研究科
- 藤村 融
Smart Business Consulting & Advisory
- 藤原 靖久
(医)仁久会藤原産婦人科
- 淵 真輝
神戸大学海事科学部
- 堀 順子
埼玉医科大学短期大学
- 堀内 由樹子
お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
- 政本 香
日本大学文学部情報学研究所
- 松井 真樹
立命館大学大学院応用人間科学研究科
- 松尾 由美
お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
- 三木 善彦
帝塚山大学心理福祉学部心理学科
- 三島 斉紀
神奈川大学経済学部
- 水澤 慶緒里
関西学院大学文学研究科
- 満石 寿
文京学院大学人間学研究科心理学専攻
- 宮崎 貴子
立教大学大学院
- 村瀬 千春
産業医科大学産業保健学部
- 村田 芳実
株式会社小森コーポレーション
- 村山 綾
大阪大学大学院人間科学研究科
- 孟 琳
信州大学人文学部
- 茂原 直樹
文教大学大学院人間科学研究科人間科学専攻
- 森 慶輔
昭和女子大学大学院生活機構研究科
- 森光 彩
立命館大学
- 谷津 修一
常磐大学大学院人間科学研究科
- 山内 直人
国士舘大学体育学部
- 山入端 津由
いわき明星大学人文学部心理学科
- 山本 圭太
国士舘大学大学院
- 山本 直宏
山形県警察本部科学捜査研究所
- 横山 泉
東京国際キャリアダイナミックス
- 吉岡 節夫
株式会社 BRLM 高速学習アカデミー
- 吉田 美穂
立命館大学社会学研究科
- 吉田 有希
橋本市役所
- 渡部英夫
のびのびライフアップスクール

2006 年度退会者名簿一覧 (2006.4~2007.3)**退会 (49 名)**

足立 浩平, 石田真知子, 一色百合子, 稲垣 徹,
井上 美香, 上田 晃子, 笈田 育子, 大上 涉,
大崎 美喜, 岡村 浩志, 小川 時洋, 柏木 恵子,
小泉 素子, 小阪 久美, 木場 富喜, 小林美穂子,
近藤 雄二, 坂上 徹雄, 坂口 朋子, 笹田 哲,
佐藤 祥子, 島田 修, 相馬 朝江, 田井中秀嗣,
田中潜次郎, 谷本 博司, 道城 裕貴, 中尾 忍,
永嶋由理子, 長野祐一郎, 服部 敬子, 浜路佳世子,
原 萃子, 福井 嗣泰, 藤田 政義, 外村 近,
増地 克之, 宮田 宏美, 宮原美佐子, 村井潤一郎,
明路 咲子, 毛利 由夫, 森清 善行, 山口 桂子,
山崎 文子, 山本 寛, 横山 純子, 吉村 勲,
渡辺 隆嗣

逝去 (6 名)

謹んでご冥福をお祈りいたします。

亀井 一綱, 菊地 藤吉, 田中 杉恵, 田中富士夫,
花沢 成一, 村上 栄二

寄贈文献 (2005.4~2007.3)

- ・応用社会学研究 第 16 卷, 第 17 卷
- ・IATSS Review Vol. 30, No. 1~No. 4 増刊号,
Vol. 31, No. 1~No. 4
- ・JAPANESE HEALTH PSYCHOLOGY No. 11
- ・学著協ニュース No. 12, No. 13
- ・学会センターニュース No. 375~No. 388
- ・学校教育学研究論集 (東京学芸大学大学院) 第
11 号, 第 12 号, 第 13 号, 第 14 号
- ・季刊社会安全 No. 56~No. 63
- ・国立情報学研究所ニュース No. 27~No. 35
- ・産業安全研究所安全資料 No. 21, No. 22, No. 23
- ・産業安全研究所研究報告 2005
- ・産業安全研究所特別研究報告 No. 31~No. 33
- ・産業安全研究所年報 平成 17 年度
- ・児童教育研究 第 15 号, 第 16 号
- ・上智大学心理学年報 29 卷, 30 卷
- ・人事試験研究 No. 195~No. 202
- ・スポーツ心理学研究 第 32 卷 1 号, 第 33 卷 1
号 2 号
- ・筑波大学心理学研究 No. 29~No. 33
- ・テレビ・ラジオ番組個人視聴率調査 平成 17 年
4 月・6 月・9 月・11 月, 平成 18 年 4 月・6

月・11 月

- ・東海大学記要 第 13 号, 第 14 号
- ・東京学芸大学紀要 総合教育科学系 第 57 集,
第 58 集
- ・名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 教育科
学 第 52 卷 1 号 2 号, 第 53 卷 1 号 2 号
- ・名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 心理発
達科学 第 52 卷, 第 53 卷
- ・日本子ども家庭総合研究所紀要 第 41 集, 第 42
集
- ・博士学位論文要旨 (学芸大学大学院) 第 8 号,
第 9 号
- ・発達研究 (発達科学研究教育センター) No. 19,
No. 20
- ・ファジィシステムシンポジウム講演論文集 第
21 回
- ・別冊 医学のあゆみ 学会案内 (医師薬出版株式
会社) 2005 年 7 月号, 2006 年 1 月号, 2006 年
7 月号, 2007 年 1 月号
- ・母子保健情報 51 号, 52 号, 53 号, 54 号
- ・安田女子大学大学院文学研究科紀要 第 11 集,
第 12 集
- ・科学警察研究所報告 (犯罪行動科学編) 43 卷 1
号, 44 卷 1 号
- ・科学警察研究所報告 57 卷 1 号, 58 卷 1 号
- ・学術の動向 (日本学術協力財団) 2005. 4~
2006. 6
- ・慶応義塾大学大学院 社会学研究科紀要 第 60
号, 第 61 号, 第 62 号, 第 63 号
- ・健康心理学研究 Vol. 19, No. 1, No. 2
- ・交通科学 (大阪交通科学研究会) Vol. 36, No. 1,
No. 2, Vol. 37, No. 1
- ・山梨大学教育人間科学部紀要 第 7 卷 1 号~3,
第 8 卷
- ・指導と評価 2005. 4~2007. 3
- ・人間関係学研究 12 卷 1 号, 13 卷 1 号
- ・Progress in Informations No. 2, No. 3, No. 4
- ・聖徳大学心理教育相談所紀要 Vol. 3, Vol. 4
- ・関係学研究 33 卷 1 号, 34 卷 1 号
- ・国立身体障害者リハビリテーションセンター研究
紀要 25 号, 26 号
- ・基礎心理学研究 34 卷 2 号, 35 卷 1 号 2 号
- ・教育総合研究所年報 (安田女子大学) 創刊号, 2
号
- ・日本産業カウンセリング学会 20 卷 (特集号)

日本応用心理学会学会賞規程

- 第1条 日本応用心理学会は、応用心理学の振興と発展を図るため、ここに日本応用心理学会学会賞（以下、学会賞という）を設ける。
- 第2条 学会賞は、論文部門と実践活動部門からなり、応用心理学の研究および実践に特に貢献した会員に授与する。
- 第3条 学会賞の論文部門は、本学会機関誌『応用心理学研究』所載の論文を対象とし、実践活動部門は、応用心理学の知見を生かした社会的実践活動を行っている会員を対象とする。
- 第4条 学会賞の授与は隔年とする。
- 第5条 学会賞選考のために学会賞選考委員会（以下、委員会という）を当該年度に設置する。
- 2 委員の定数は7名を上限とし、任期は当該年度末までとする。
 - 3 委員長は副理事長とする。
 - 4 委員長は常任理事会の承認を得て委員を指名する。
 - 5 委員会は学会賞の候補を選考し、常任理事会に提案する。
- 第6条 学会賞の授与は、年次大会時に理事長が行う。
- 第7条 学会賞の選考細則は別に定める。
- 附 則
- 1 本規程は平成19年2月23日より施行する。

日本応用心理学会学会賞選考細則

- 第1条 学会賞の選考は、第1次選考と第2次選考により行う。
- 2 論文部門の選考は過去2年間の本学会機関誌『応用心理学研究』所載の論文を対象とする。
- 第2条 第1次選考は、理事の推薦に基づき、学会賞選考委員会において行う。
- 2 理事による推薦は論文部門および実践活動部門の各部門につき2件以内とし、候補者氏名、該当業績、推薦理由、推薦人氏名を明記するものとする。
- 第3条 第2次選考は常任理事会において行う。

お詫びと差し替えのお願い

前号(32巻2号)の事務局だよりに掲載した2005年度決算書に一部記載漏れがありました。修正版を掲載いたしましたので差し替えをお願いいたします。

日本応用心理学会 2005年度決算書

(2005年4月1日～2006年3月31日)

収 入			支 出		
項 目	決算額	予算額	項 目	決算額	予算額
会費	5,571,000	5,760,000	第72回大会補助費	700,000	700,000
過年度分	384,000	480,000	学会賞・奨励賞	0	100,000
本年度分	5,187,000	5,280,000	心理学諸学会連合	60,000	60,000
賛助会費	30,000	30,000	シンポジウム・講演費謝金	158,000	200,000
「応用心理士」関係	181,000	600,000	研修会講師謝金	60,000	100,000
審査料	60,000	150,000	国際交流費	0	300,000
認定料	120,000	450,000	「応用心理士」関係経費	58,746	200,000
その他	1,000		委員会活動費	645,829	1,400,000
寄付金(稲毛教子名誉会員)	200,000		機関誌編集委員会	76,654	250,000
雑収入	479,156	200,000	学会賞・奨励賞選考委員会	38,449	50,000
			シンポジウム委員会	272,130	250,000
			国際交流委員会	143,900	400,000
			広報委員会	37,970	100,000
			研修委員会	17,390	150,000
			倫理委員会	50,366	100,000
			諸規程整備検討委員会	8,970	50,000
			若手研究者支援委員会	0	50,000
			印刷費	1,409,452	2,200,000
			機関誌	1,147,860	1,500,000
			広報関係	160,230	300,000
			その他	101,362	400,000
			通信費	639,195	750,000
			機関誌郵送費	138,450	200,000
			広報関係郵送費	286,990	250,000
			その他	213,755	300,000
			常任理事交通費	400,320	750,000
			事務局運営費	423,349	700,000
			事務局委託費	569,171	800,000
			選挙関係(通信費を含む)	477,414	500,000
			予備費	0	741,119
小 計	6,461,156	6,590,000	小 計	5,601,476	9,501,119
前年度繰越金総額	8,811,119	8,811,119	次年度繰越金総額	9,670,799	5,900,000
名簿作成積立金	1,500,000	1,500,000	名簿作成積立金	2,000,000	2,000,000
特別企画積立金	2,000,000	2,000,000	特別企画積立金	2,500,000	2,500,000
若手育成基金	1,400,000	1,400,000	若手育成基金	1,400,000	1,400,000
前年度繰越金	3,911,119	3,911,119	次年度繰越金	3,770,799	0
合 計	15,272,275	15,401,119	合 計	15,272,275	15,401,119

以上のとおり相違ありません。

平成18年7月28日

監査委員 玉井 寛 印
監査委員 藤森 立男 印